

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 4 rows: 事業所番号 (01729016688), 法人名 ((有)旭川高齢者グループホーム), 事業所名 (グループホームほーぶ旭川), 所在地 (北海道旭川市永山12条2丁目5番1号), 自己評価作成日 (令和元年7月24日), 評価結果市町村受理日 (令和元年9月9日)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域の一人として介護の理解が深まっています。町内会の資源回収や運動会に呼ばれています。地域内の他のグループホームや地域包括センターと連携して利用者様の支援に努めています。勉強会の参加や行方不明者の捜索等行っています。季節に応じた桜や紅葉見学を行っています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

Table with 2 columns: 基本情報リンク先URL, http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou\_detail\_022\_kihon=true&JieyosyoCd=0172901688-00&ServiceCd=320

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 3 rows: 評価機関名 (特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット), 所在地 (札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401), 訪問調査日 (令和元年8月20日)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

多数の福祉事業を展開している法人が、平成26年住宅街の一角に新築移転し、2階建て2ユニットに15名が暮らしている事業所である。最寄りの駅やバス停からも近く、利便性に優れている。裏手に牛朱別川からの農業用水路があり、町内会と行政の協議により、水害発生時に備え排水ポンプが設置されたことを、運営推進会議の席上で町内会役員から公表されている。法人役員の農園から新鮮な野菜や花々が届き食卓を豊かにし、事業所内は華やきがある。利用者の高齢化が進み、日常的な外出は困難であるが、窓を全開にして風を取り込んだり、玄関先で日光浴をしたり、近くの公園に飲み物やおやつを持参して桜見物を楽しんでいる。職員は、人員配置に余裕が出来たら、散歩やレクを充実させたいとの要望があり、解決に向けて模索している事業所である。

Table with 4 columns: 項目, 取り組みの成果 ↓該当するものに○印, 項目, 取り組みの成果 ↓該当するものに○印. Rows 56-62 detailing service outcomes and staff performance.

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	1日2回の申し送り時にケアに対する意識のずれがないように話しをしています	法人理念と事業所理念を玄関など要所に掲示し、職員や来訪者に運営やケアの基本姿勢を示している。新人研修でも理念の意義を説明し、何事もなく日々過ごせることを目標にするなど、理念の実践に努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会へ加入しています。廃品回収への協力や毎年8月に町内の運動会に参加しています	町内会の資源回収日には、物品を提供し、運動会は、利用者の高齢化もあり見物のみとしている。公園で桜を觀賞したり、七夕に訪れる子供達と一時の触れ合いがあるなど、地域の一員として暮らしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現在行っていません。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を2か月おきに開催して取り組みの報告や意見の交換を行っています	会議は年6回の開催を計画し、順次実践している。現況報告後に、身体拘束廃止に関する取り組みや、事故・ヒヤリハット報告等について参加者と情報や意見交換が行われ、事業所の質向上に生かしている。	家族の参加が得られていない、利用契約時や家族来訪時に、会議への参加要請を行うも困難な状況にある。引き続き日時設定の工夫や行事日に合わせた開催を考慮しているので、その取り組みに期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の介護保険担当者やケースワーカーや地域包括支援センターが主催の連絡会へ参加をして情報交換を行っています。	行政主催の研修会への参加や、利用者の状況確認に訪れる担当職員と情報交換が行われている。運営に関する案件は法人が担当し、事故報告は管理者が担当窓口を訪れ、改善に向けた助言を運営やケアの向上に繋げている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	転倒のおそれのある方には、ご家族と相談して同意を得てからベット柵やセンサーマットを使用しています。	利用者の頻繁な転倒があり、ベット柵やセンサーマットの設置、身体に影響を及ぼす動作の抑制の為に、臥床時のみミトンを使う利用者があるが、いずれも、家族に説明の上同意を得ている。改善に向けた検討が行われ記録に残している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	1日2回の申し送り時を通じて防止に努めています。虐待が見過ごされないように注意しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ミーティングにて成年後見制度について学んでいます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居する際に渋滞項目事項を説明する。利用者様やご家族が来所時された際や電話時でも不安を聞いて納得を得ています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様のご家族様が来所された際に家族の意見を聞いて運営に反映させています	家族来訪時や電話等で、利用者の日々の暮らしを伝えている。家族からは、殆どがケアに対しての要望であり、迅速に対応している。職員から提案することもあり、家族と共に利用者を支える関係を築いている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	申し送りやミーティング等で意見や提案を聞く機会を設けています	職員は、管理者や法人職員の来訪時に、運営に関しての意見や要望を表している。さらに、必要時は個別面談を行っているが、状況に応じて法人の指示を仰いでいる。レクなど業務全般は、職員全員で担っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	出来る限り就労の環境や条件の整備に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修を受ける機会を設けています		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	交流を通じてサービスの向上に努めています		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めています。	利用者様のご家族様と連絡を取りながら本人の困っている事や要望を聞き、安心して過ごせるように努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様が来所された時に普段の生活を伝えて、ニーズを聞きながら信頼関係が築けるように努めています		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族がまず必要としている支援を把握する。経過を記録にまとめ対応に努めています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護を行う際に暮らしを共に築くための声かけやコミュニケーションを大切にしています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	来所や外出、電話を通じて、本人との絆を大切にして支えていく関係作りに努めています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人や場所の関係の継続に努めています。	面会に訪れる方々を居室に案内してお茶を用意するなど、心地良い環境作りに努めている。家族の支援で自宅訪問や墓参、外泊、出身地の温泉に宿泊等が行われている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お茶の時間やおやつの時間にコミュニケーション作りに努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院をされていても病院へ様子を見に行き家族から経過を聞いています		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人一人の意向を聞きながら支援に役立てています	職員に思いを伝える利用者もいるが、困難な場合は、日々の様子を記している介護記録や家族の意向、看護職員の情報を参考に要望を押し量っている。内容によってはケアプランの目標に挙げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	個人のフェイスシートを利用して本人の過去の話しを聞くなどして把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	見守りや声かけを行い把握に努めています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ミーティングで話しあい意見を出し合っています	ケアプランは、定期的見直しや状態変化時に新たに作成している。利用者や家族の要望を基本とし、看護職員や医療関係者の意見も取り入れ、職員間で検討を行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々変わった事何かあれば報告します		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の様子を把握してサービスの多様化に努めています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	趣味や特技等を活かせる事を増やしています		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望を大切にしています	看護職員による週3回の健康チェックや体調変化時は、直ぐに相談でき、早期の受診に繋がっている。半数ほどの利用者は、協力医療機関の送迎による受診が行われ、従来からのかかりつけ医へは家族の対応だが、職員が同行する場面もある。	



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	申し送りや看護日誌を通じて体調の管理や行動の変化を情報収集し適切な受診や看護が受けられるように支援しています		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご家族様が病院との連絡や病棟を訪ねる等をして情報収集ができるように支援します		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	本人や家族の要望ができるように把握して支援します	入居時に指針を説明し、同意を得ている。往診医の確保が得られず、看取り支援は行われていない。状態変化時は主治医、家族と面談を持ち、今後の方向性を確認している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルはあるが実践できていない		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	緊急連絡網と避難訓練を年2回実施しています	消防署や地域住民に協力を要請して、年2回昼夜想定避難訓練を計画し、順々に実行している。発電機の設置が決定し、備蓄品類は法人本部も用意があり、非常時は連動態勢にある。	法人による自然災害のマニュアルを準備しており、それに沿ったシミュレーションや実践的訓練を計画しているので、その取り組みに期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉遣いや対応についてその場で注意しています	理念の中でも人格の尊重を掲げており、尊厳を損なわない対応を心掛けている。業務上や勉強会等で適切な接遇を学び、正しい理解に繋げ実践に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	可能な限り本人の意向を尊重。難しい時には、家族の協力を得ています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のその日ペースができていない		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	病院受診時や外出時に着たい服を選んで頂いています。1カ月に1回利用されています		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と一緒に後片付けを毎日行っています	業者から献立と食材が届いているが、状況によっては、アレンジしたり昔懐かしい食事を作っている。法人役員の農園から旬の野菜の提供があり、食卓を豊かにしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人の栄養バランスや食事形態について考慮します		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者に応じた口腔ケアをしています		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のパターンや習慣を活かして支援しています	居室のトイレは、転倒しても頭がぶつからない造りになっている。直ぐにトイレで排泄が出来ることは、自立支援や失敗の軽減になっている。排泄状況は、職員の共有としている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	利用者に応じたケアを行っています		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	介護度が重度な方が多く実施は難しい	入浴は、基本的に午前中に週2回を目途に支援を行い、入浴後は飲み物を用意している。入浴拒否があれば、言葉かけや時間をずらすなど、工夫を凝らし清潔保持に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の状況に応じて主治医と相談の上で眠剤を服用して夜間入眠されています		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者に応じて薬の服薬支援と病状の変化の確認に対応できる支援を実施しています		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者を理解して一人ひとりの生活に取り入れています		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出支援については家族に依頼しています	車窓から旭川雪祭り見物や永山しゃくなげ公園の花見、旭山公園の紅葉見物と周辺の田畑やりんご園を眺めている。日常的に窓を全開にして外の空気を取り込んだり、近くの公園で桜見をしている。墓参など家族の外出支援も得ている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金については、基本的に施設で管理されていますが所持金については、少額持参されている方がいます。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	施設の電話を利用しています。職員が代弁したり利用者や家族の協力を得て支援しています		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	生活感や季節感を取り入れた飾りを行っています	平成26年に新築移転しており、清潔を保っている。玄関や居間にはあじさいが活けられ、ゆったりとした明るい雰囲気の中で、利用者は心地良い居場所で寛いでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者同士がホールや食堂で談笑出来るように支援しています		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族より使い慣れた物や好みの物を持ってきていただいています	居室には、トイレと洗面台、クローゼット、物干しポールを設置している。一部分の壁の色が各々違っており、自分の部屋として分かり易い設えになっている。利用以前と同じような居室となるよう、馴染みの扇風機や三面鏡などを持ち込んでいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内で居室には表札をつけたり工夫をして少しでも自立した生活が送れるように支援しています		